

2016年度第2四半期決算説明会



2016年10月28日

---

## 1. 2016年度第2四半期決算実績概要

---



# 2016年度第2四半期実績(2016.4.1 - 2016.9.30) <対前年同期実績>

## ポイント 減収減益

(+/-、+/-▲は利益に対する影響を示す、億円)

<b>売上高</b>	▲1,937	-	都市ガス (▲1,622:原料費調整に伴う単価減等▲1,638、数量増+6)
		-	エネルギー関連 (▲454:器具▲160(ガスター連結除外影響等)、エンジニアリングソリューション▲139(工事量減等) LNG販売▲130(原油価格下落による販売単価減))
<b>営業費用</b>	+1,198	+	都市ガス原材料費等 (+1,236:フレーム影響等による単価減+1,238、数量増▲2)
<b>営業利益</b>	▲738	-	都市ガス (▲586:ガス粗利▲395(うちスライド差▲377)、固定費増▲202)
		-	エネルギー関連 (▲76:LNG販売▲42(うちスライド差▲42)、器具▲27)
		-	電力 (▲48:小売販売経費、減価償却費増)
<b>特別損益</b>	+55	+	投資有価証券売却益 +29 (当期29-前期0)、 投資有価証券評価損 +26 (当期0-前期▲26)

(単位: 億円)

	2016年度2Q	2015年度2Q	増減	%	前回見通し(7/29)	増減	%
ガス販売量(百万m <sup>3</sup> , 45MJ)	7,210	7,184	+26	+0.4%	7,133	+78	+1.1%
電力販売量(百万kWh)	6,172	4,957	+1,215	+24.5%	6,196	▲24	▲0.4%
売上高	7,077	9,014	▲1,937	▲21.5%	7,090	▲13	▲0.2%
営業費用	6,715	7,913	▲1,198	▲15.1%	6,860	▲145	▲2.1%
営業利益	362	1,100	▲738	▲67.1%	230	+132	+57.4%
セグメント利益(営業利益+持分法損益)	370	1,108	▲738	▲66.5%	238	+132	+55.9%
経常利益…①	343	1,070	▲727	▲67.9%	200	+143	+71.9%
特別損益	29	▲26	+55	-	29	0	-
親会社株主に帰属する当期純利益	264	806	▲542	▲67.1%	150	+114	+76.6%
気温影響…②	▲49	▲50	+1	-	▲49	0	-
スライドタイムラグ(都市ガス+LNG販売)…③	88	507	▲419	-	28	+60	-
年金数理差異償却額…④	▲120	▲11	▲109	-	▲120	0	-
補正経常利益①-(②+③+④)	424	624	▲200	▲32.1%	341	+83	24.3%

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
16年度2Q	105.25	43.75	21.5
15年度2Q	121.87<▲16.62>	58.84<▲15.09>	21.4<+0.1>
前回見通し(7/29)	106.58(▲1.33)	43.05(+0.70)	21.4(+0.1)

年金	運用利回り ※コスト控除後	期末資産 (億円)
16年度2Q累計	2.28%	2,840

期待運用収益率:2%

<>内は対前年同期増減、( )内は対前回見通し増減

まず決算の概況でございます。当第2四半期につきましては、上期決算としては、2期連続の減収、5期ぶりの減益となっております。

まず、売上高合計は、ガス販売量がほぼ前年同期並みであったのに対し、原料費調整に伴う単価減等によるガス売上の減少、エネルギー関連における器具・LNG販売の減少等により前年同期比21.5%、1,937億円の減収となり、7,077億円となりました。

一方、営業費用は、油価下落影響等によるガス原材料費の減少等により、15.1%、1,198億円減の6,715億円となりました。

この結果、営業利益は対前年同期67.1%、738億円減の362億円、経常利益は67.9%、727億円減の343億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、67.1%、542億円減の264億円となりました。

なお、中間配当金につきましては、1株当たり5円50銭とし、年間予定11円は変更ございません。

## 2016年度2Q実績 連結ガス販売量

16年度2Q実績 (対前年同期実績)

16年度2Q実績(対前回見通し(7/29))

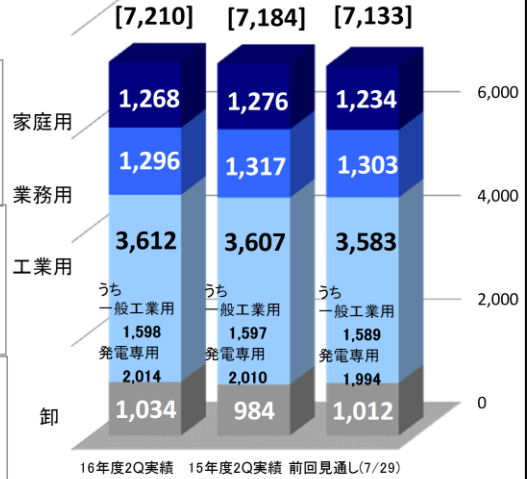
ガス販売量:

(百万m<sup>3</sup>以下四捨五入)  
8,000

**+26百万m<sup>3</sup> (+0.4%)の増加**  
[うち気温影響 +4百万m<sup>3</sup>, +0.0%の増加]

**+78百万m<sup>3</sup> (+1.1%)の増加**  
[うち気温影響 +1百万m<sup>3</sup>, +0.0%の増加]

16年度2Q実績 (対前年同期実績)		16年度2Q実績(対前回見通し(7/29))	
<b>■ 家庭用</b> ▲8百万m <sup>3</sup> (▲0.6%)			
● 気温要因	0百万m <sup>3</sup>	● 気温要因	+34百万m <sup>3</sup> (+2.8%)
● 日数影響	+8百万m <sup>3</sup>	● 日数影響	0百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+20百万m <sup>3</sup>	● お客さま件数	0百万m <sup>3</sup>
● その他	▲36百万m <sup>3</sup>	● その他	+34百万m <sup>3</sup>
<b>■ 業務用</b> ▲21百万m <sup>3</sup> (▲1.6%)			
● 気温要因	+6百万m <sup>3</sup>	● 気温要因	+7百万m <sup>3</sup> (▲0.5%)
● 日数影響	+3百万m <sup>3</sup>	● 日数影響	+1百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+8百万m <sup>3</sup>	● お客さま件数	0百万m <sup>3</sup>
● その他	▲38百万m <sup>3</sup>	● その他	+4百万m <sup>3</sup>
<b>■ 工業用</b> +5百万m <sup>3</sup> (+0.1%)			
● 一般工業用:	+1百万m <sup>3</sup>	● 一般工業用:	+9百万m <sup>3</sup>
● 発電専用:	+4百万m <sup>3</sup>	● 発電専用:	+20百万m <sup>3</sup>
<b>■ 卸</b> +50百万m <sup>3</sup> (+5.1%)			
● 気温要因	▲2百万m <sup>3</sup>	● 気温要因	+22百万m <sup>3</sup> (+2.2%)
● その他	+52百万m <sup>3</sup>	● その他	+22百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等		卸供給事業者需要増等	



お客さま件数(万件) 上段:実績 下段:増減

16年度2Q実績	15年度2Q実績	前回見通し
1,144.8	1,131.5	1,144.7
	+13.3(+1.2%)	+0.1(0.0%)

	16年度2Q実績	15年度2Q実績	前回見通し
LNG液販売量(千t)	515	490	514
		(+25)	(+1)
平均気温(°C)	21.5	21.4	21.4
		(+0.1)	(+0.1)

続いて、この決算のベースとなりました、当社の主力製品であるガス販売量の実績についてご説明します。3ページをご覧ください。

全体では、ほぼ前年同期並み、前年同期比で0.4%、2千6百万 m<sup>3</sup>増の72億1千万m<sup>3</sup>となりました。

内訳として差異が大きいのは卸供給で、卸供給事業者の需要増により、5.1%増となっております。

前回見通しとの比較では1.1%、7千8百万m<sup>3</sup>の増となりました。内訳としては、家庭用で2.8%増、卸供給で2.2%増の差異が出ております。

**■ ビジョンベースガス販売量(単位:百万m3)**

	16年度2Q実績	15年度2Q実績	増減	前回見通し(7/29)	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	7,210	7,184	+26 +0.4%	7,133	+78 +1.1%
トーリングによる ガス自家使用量	989	775	+214 +27.6%	980	+9 +0.9%
LNG販売量(m3換算)	643	613	+30 +4.9%	643	0 0.1%
合計	8,842	8,572	+270 +3.2%	8,756	+86 +1.0%

4ページには、トーリングおよびLNG販売量を含むビジョンベースでのガス販売量実績の内訳を掲載しておりますので、ご参照下さい。

## 2016年度2Q実績 セグメント別売上高・セグメント利益<対前年同期実績>

TOKYO GAS

(単位:億円)

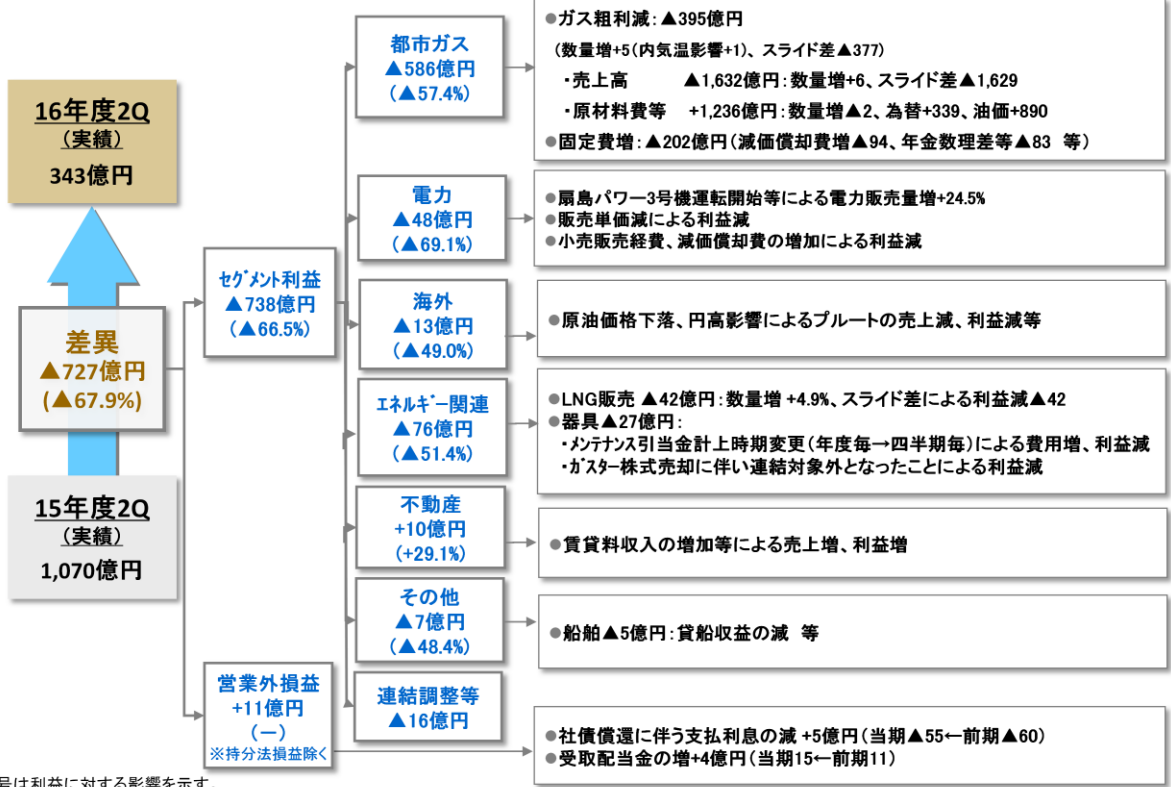
	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	2016年度2Q	2015年度2Q	増減	%	2016年度2Q	2015年度2Q	増減	%
都市ガス	4,622	6,244	▲1,622	▲26.0	435	1,021	▲586	▲57.4
電力	649	617	32	5.3	21	69	▲48	▲69.1
海外	130	138	▲8	▲5.9	14	27	▲13	▲49.0
エネルギー関連	2,059	2,513	▲454	▲18.1	71	147	▲76	▲51.4
(エンジニアリングソリューション)	490	629	▲139	▲22.0	17	21	▲4	▲22.0
(LNG販売)	458	588	▲130	▲22.1	45	87	▲42	▲47.8
不動産	202	192	10	4.9	43	33	10	29.1
その他	389	353	36	10.3	7	14	▲7	▲48.4
調整額	▲975	▲1,044	69	—	▲222	▲206	▲16	—
セグメント合計	7,077	9,014	▲1,937	▲21.5	370	1,108	▲738	▲66.5

注記: ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。  
 ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。  
 ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。  
 ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。

5ページでは、セグメント別に度売上高、セグメント利益を前年同期との比較で記載しています。

都市ガスセグメントの利益減少586億円が、全体利益を押し下げておりますが、スライドタイムラグの悪化が大きく、約▲380億円が主要因となっております。

# 2016年度2Q実績 経常利益分析 <対前年同期実績>



6ページでは、各セグメントの利益増減について、前年同期との比較でお示ししております。

都市ガスセグメント▲586億円減益の主な要因は、スライドタイムラグによる影響▲377億円等でございます。

電力事業につきましては、扇島パワー3号機が昨年度2月に運転開始したことにより電力販売量は増加したものの、原油価格下落等に伴う販売単価減、小売り参入に伴う先行費用投入等により ▲48億円の減益となりました。

海外事業は、原油価格下落及び円高に伴い上流事業の利益が減少した結果、▲13億円の減益となっております。

エネルギー関連セグメントでは、LNG販売において数量は増加したもののスライド差による利益の減少があり、セグメント全体では▲76億円の減益となっております。

---

## 2. 2016年度 通期見通し

---





# 2016年度見通し(2016.4.1 - 2017.3.31) <対前回見通し(7月29日発表)>

## ポイント: 増収増益

(+/- は利益に対する影響を示す、億円)

・経済フレームは、上期の確定値を反映し、下期は前回見通し時のまま為替105.0円/\$、原油価格\$45/bblとしている。  
 ・ガス販売量は、2Qの対前回見通し増加分を反映し、3Q以降は前回見通しを踏襲。

売上高	+50	+	都市ガス	(+53: 家庭用・工業用の販売量増等)
		+	電力	(+53: 売上単価増等)
営業費用	+30	-	エネルギー関連	(▲69: エンジニアリング/ソリューション分野の販売量・工事量減等)
営業利益	+80	+	連結調整	(減価償却費の減等+30)
		+	都市ガス	(+36: 販売量増等)
		+	電力	(+9: 売上増・燃料費減による粗利増)

(単位: 億円)

	今回見通し	前回見通し(7/29)	増減	%	前年度実績	増減	%
ガス販売量(百万m <sup>3</sup> , 45MJ)	15,634	15,556	+78	+0.5%	15,436	+198	+1.3%
電力販売量(百万kWh)	13,007	13,026	▲19	▲0.1%	10,959	+2,048	+18.7%
売上高	15,960	15,910	+50	+0.3%	18,846	▲2,886	▲15.3%
営業費用	15,400	15,430	▲30	▲0.2%	16,926	▲1,526	▲9.0%
営業利益	560	480	+80	+16.7%	1,920	▲1,360	▲70.8%
セグメント利益(営業利益+持分法損益)	579	496	+83	+16.7%	1,941	▲1,362	▲70.2%
経常利益...①	480	400	+80	+20.0%	1,888	▲1,408	▲74.6%
特別損益	70	70	0	0.0%	▲330	+400	—
親会社株主に帰属する当期純利益	410	350	+60	+17.1%	1,119	▲709	▲63.4%
気温影響...②	▲49	▲49	0	—	▲173	+124	—
スライドタイムラグ(都市ガス+LNG販売)...③	▲61	▲74	+13	—	803	▲864	—
年金数理差異償却額...④	▲241	▲241	0	—	▲23	▲218	—
補正経常利益...①-(②+③+④)	831	764	+67	+8.8%	1,281	▲450	▲35.1%

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
今回見通し	105.13	44.38	16.1
前回見通し(7/29)	105.79<▲0.66>	44.02<+0.36>	16.1<0.0>
前年度実績	120.17(▲15.04)	48.73(▲4.35)	16.6(▲0.5)

<>内は対前回見通し増減、()内は対前年度実績増減

年金	運用利回り ※コスト控除後	割引率		期末資産 (億円)
		年金分	一時金分	
15年度	2.92%	0.236%	0.000%	2,810
14年度	5.57%	0.829%	0.358%	2,810

2016年度通期につきましては、7月発表の前回見通しとの対比で増収増益と見通しております。なお、見通しの前提となる10月以降の経済フレームは前回から変更しておらず、為替レートを1ドル105円、原油価格は1バレル45ドルとしております。

ガス販売量につきましては、上期実績を反映させ、0.5%増の156億3千4百万m<sup>3</sup>と見通しております。内訳は後程ご説明いたします。

売上高は前回見通しとの比較で0.3%、50億円増の1兆5,960億円を見通しております。これは主としてガス販売量の増加等による都市ガス事業の増収や、電力売上単価増等による電力事業の増収等によるものです。

営業費用は対前回見通し0.2%、30億円減の1兆5,400億円を見通しております。これは主として減価償却費連結調整の見直し等によるものです。

この結果、営業利益は対前回見通し16.7%、80億円増の560億円、経常利益は20.0%、80億円増の480億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、17.1%、60億円増の410億円と見通しております。

# 2016年度見通し 連結ガス販売量

## 今回見通し(対前回見通し(7/29))

**+78百万m<sup>3</sup> (+0.5%)の増加**  
 [うち気温影響+1百万m<sup>3</sup>, +0.0%の増加]

■ 家庭用	+34百万m <sup>3</sup> (+1.0%)
● 気温要因	0百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	0百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	0百万m <sup>3</sup>
● その他	+34百万m <sup>3</sup>

■ 業務用	▲7百万m <sup>3</sup> (▲0.3%)
● 気温要因	+1百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	0百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+4百万m <sup>3</sup>
● その他	▲12百万m <sup>3</sup>

■ 工業用	+29百万m <sup>3</sup> (+0.4%)
● 一般工業用:	+8百万m <sup>3</sup>
● 発電専用:	+21百万m <sup>3</sup>

■ 卸	+23百万m <sup>3</sup> (+1.1%)
● 気温要因	0百万m <sup>3</sup>
● その他	+23百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等	

## 今回見通し(対前年度実績)

**+198百万m<sup>3</sup> (+1.3%)の増加**  
 [うち気温影響+227百万m<sup>3</sup>, +1.5%の増加]

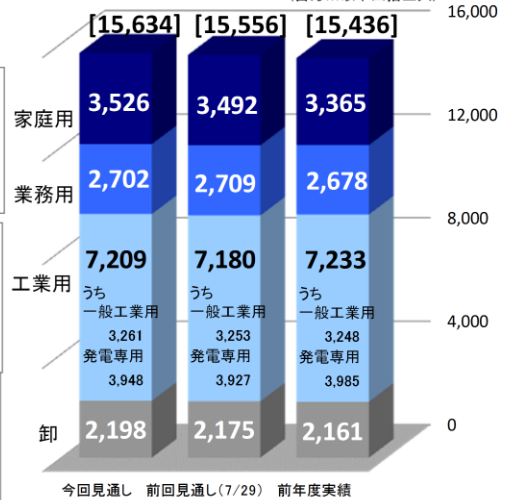
■ 家庭用	+161百万m <sup>3</sup> (+4.8%)
● 気温要因	+152百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	+3百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+51百万m <sup>3</sup>
● その他	▲45百万m <sup>3</sup>

■ 業務用	+24百万m <sup>3</sup> (+0.9%)
● 気温要因	+55百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲2百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+27百万m <sup>3</sup>
● その他	▲56百万m <sup>3</sup>

■ 工業用	▲24百万m <sup>3</sup> (▲0.3%)
● 一般工業用:	+13百万m <sup>3</sup>
● 発電専用:	▲37百万m <sup>3</sup>

■ 卸	+37百万m <sup>3</sup> (+1.7%)
● 気温要因	+20百万m <sup>3</sup>
● その他	+17百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等	

## ガス販売量:



## お客さま件数(万件)

	今回見通し	前回見通し	前年度
お客さま件数(万件)	1,153.7	1,153.7	1,139.8
		0.0(0.0%)	+13.9(+1.2%)
LNG液販売量(千t)	1,054	1,059	1,147
		(▲5)	(▲93)
平均気温(°C)	16.1	16.1	16.6
		(0.0)	(▲0.5)

ガス販売量につきましては、9ページをご覧ください。

前回見通しとの比較の内訳ですが、家庭用が、上期の1件当たりガス販売量が計画を上回ったこと等により1.0%、3千4百万m<sup>3</sup>の増、業務用は、既存需要家の使用量減等により0.3%、7百万m<sup>3</sup>の減、工業用は、発電用需要の増等により0.4%、2千9百万m<sup>3</sup>増、卸供給は、卸供給事業者の需要増等により1.1%、2千3百万m<sup>3</sup>の増を見込んでおります。

## ●ビジョンベースガス販売量(単位:百万m3)

	今回見通し	前回見通し (7/29)	増減	前年度実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	15,634	15,556	+78 +0.5%	15,436	+198 +1.3%
トーリングによる ガス自家使用量	2,062	2,053	+9 +0.4%	1,717	+345 +20.1%
LNG販売量(m3換算)	1,318	1,324	▲6 ▲0.5%	1,434	▲116 ▲8.1%
合計	19,014	18,933	+81 +0.4%	18,587	+427 +2.3%

10ページにはビジョンベースでのガス販売量見通しの内訳を掲載しております。当年度はビジョンベース合計で190億m3のガス販売量を見通しております。

## 2016年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対前回見通し(7/29発表)>



(単位:億円)

	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	今回見通し	前回見通し	増減	%	今回見通し	前回見通し	増減	%
都市ガス	10,326	10,273	53	0.5	830	794	36	4.5
電力	1,441	1,388	53	3.8	24	15	9	61.3
海外	269	276	▲7	▲2.5	22	23	▲1	▲4.3
エネルギー関連	4,572	4,641	▲69	▲1.5	89	81	8	9.9
(エンジニアリングソリューション)	1,074	1,112	▲38	▲3.3	37	37	0	0.0
(LNG販売)	884	881	3	0.3	39	35	4	12.3
不動産	408	411	▲3	▲0.7	73	70	3	4.3
その他	881	864	17	2.0	20	21	▲1	▲4.8
調整額	▲1,937	▲1,943	6	—	▲480	▲508	28	—
セグメント合計	15,960	15,910	50	0.3	579	496	83	16.7

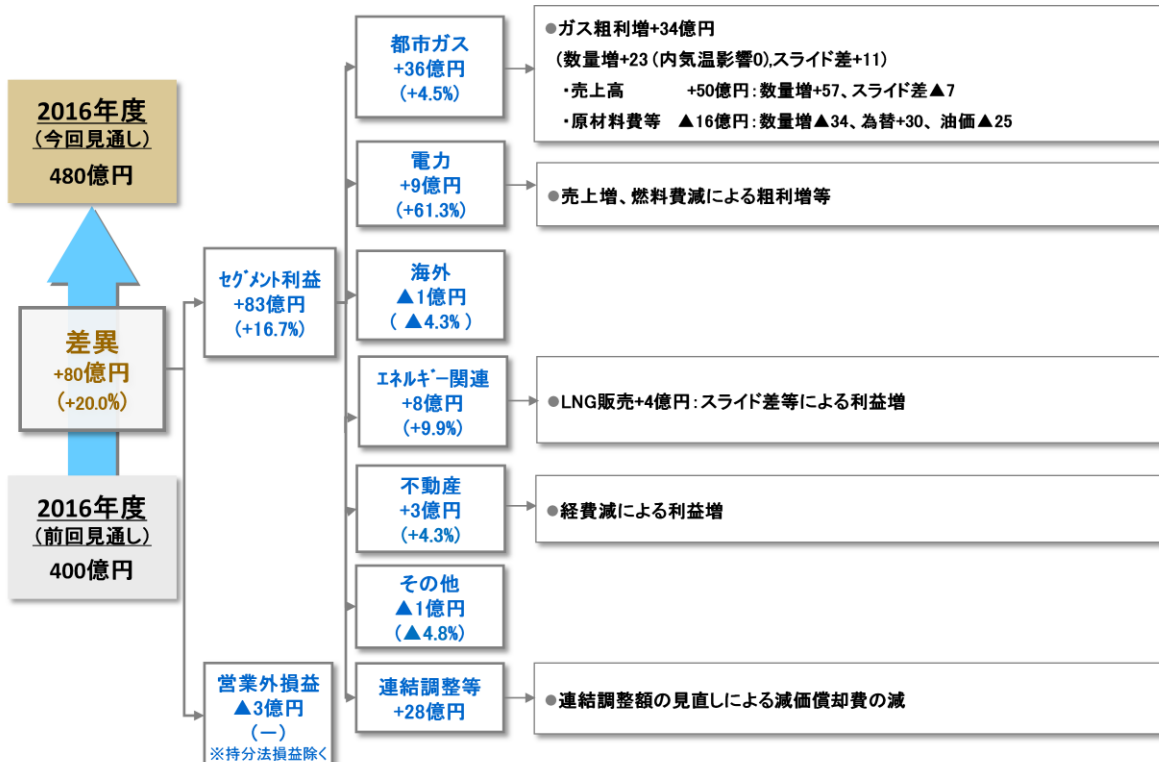
注記: ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。  
 ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。  
 ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。  
 ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。

11ページでは、セグメント別に売上高、セグメント利益の見通しを、前回見通しとの比較で記載しております。

利益の主な増減については、次のページでご説明いたします。

# 2016年度見通し 経常利益分析

<対前回見通し(7/29発表)>



※符号は利益に対する影響を示す。

都市ガスセグメント36億円の増益は、販売量増加による粗利23億円増等によるものです。

電力セグメントの9億円増益は、販売単価増による売上の増加および燃料費の減少による粗利増加等を見込んでおります。

エネルギー関連セグメント8億円増益は、LNG販売におけるスライド差等を見込んでおります。

## 2016年度見通し セグメント別売上高・セグメント利益 <対前年度実績>

(単位:億円)

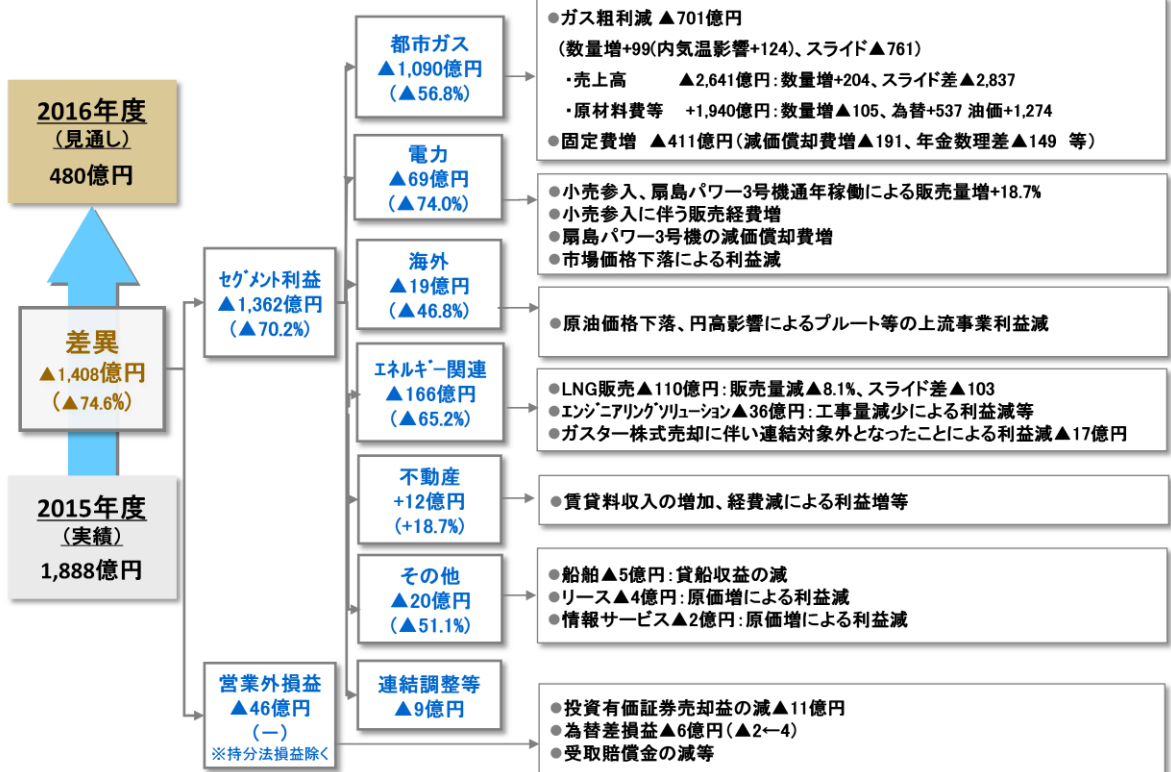
	売上高				セグメント利益(営業利益+持分法損益)			
	今回見通し	前年度実績	増減	%	今回見通し	前年度実績	増減	%
都市ガス	10,326	12,946	▲2,620	▲20.2	830	1,920	▲1,090	▲56.8
電力	1,441	1,248	193	15.4	24	93	▲69	▲74.0
海外	269	301	▲32	▲10.9	22	41	▲19	▲46.8
エネルギー関連	4,572	5,504	▲932	▲16.9	89	255	▲166	▲65.2
(エンジニアリングソリューション)	1,074	1,370	▲296	▲21.6	37	73	▲36	▲49.3
(LNG販売)	884	1,243	▲359	▲28.9	39	149	▲110	▲73.6
不動産	408	393	15	3.7	73	61	12	18.7
その他	881	802	79	9.8	20	40	▲20	▲51.1
調整額	▲1,937	▲2,351	414	—	▲480	▲471	▲9	—
セグメント合計	15,960	18,846	▲2,886	▲15.3	579	1,941	▲1,362	▲70.2

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
  - ・ セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
  - ・ 「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、器具、ガス工事、LNG販売、LPG等、産業ガス等、建設を含みます。
  - ・ 「その他」には、船舶、情報処理サービス、クレジット・リース等を含みます。

13～14ページはセグメント別情報を対前年度で比較しておりますので、ご参照ください。

# 2016年度見通し 経常利益分析

<対前年度実績>



※符号は利益に対する影響を示す。

## 主要計数表(連結)

(単位: 億円)

	2016年度 見通し	2015年度 実績	2014年度 実績
総資産 (a)	21,850	22,515	22,576
自己資本 (b)	10,110	11,002	10,695
自己資本比率 (b)/(a)	46.3%	48.9%	47.4%
有利子負債 (c)	7,730	7,157	7,307
D/E レシオ (c)/(b)	0.76	0.65	0.68
親会社株主に帰属する当期純利益 (d)	410	1,119	958
減価償却 (e)	1,630	1,451	1,418
営業キャッシュフロー (d) + (e)	2,040	2,571	2,376
設備投資 (Capex)	2,400	2,320	2,245
ROA: (d) / (a)	1.8%	5.0%	4.3%
ROE: (d) / (b)	3.9%	10.3%	9.2%
TEP	▲168	676	434
WACC	3.4%	3.4%	3.6%
総分配性向	60%程度	60.1%	60.8%

注: 自己資本 = 純資産 - 非支配株主持分  
 ROA = 純利益 / 総資産 (期首・期末平均)  
 ROE = 純利益 / 自己資本 (期首・期末平均)  
 BS関連数値は各期末時点の数値  
 営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却 (長期前払費用償却含む)  
 総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益

TEP (Tokyo Gas Economic Profit) について  
 TEP = NOPAT - 資本コスト (投下資本 × WACC)  
 ○株主資本 = 時価総額  
 ○WACC算定諸元 (2016年度見通し)  
 ・有利子負債コスト 実績金利 1.12% (税引後)  
 ・株主資本コスト率  
 ・リスクフリーレート 10年国債利回 0.44%  
 ・マーケットリスクプレミアム 5.5% β 値 0.75

15ページには連結ベースの主要計数を掲載しております。



---

### 3. 参考資料



## 原油価格JCCが \$1/bbl 上昇する場合

(単位:億円)

		収支影響時期		
		第3四半期	第4四半期	下期計
変動時期	第3四半期	▲1	▲11	▲12
	第4四半期	—	▲3	▲3
	下期	▲1	▲14	▲15

## 円ドルレートが ¥1/\$ 円安になる場合

(単位:億円)

		収支影響時期		
		第3四半期	第4四半期	下期計
変動時期	第3四半期	▲6	+6	0
	第4四半期	—	▲8	▲8
	下期	▲6	▲2	▲8



＜見通しに関する注意事項＞

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

TSE:9531